

看護師職能Ⅰ委員会

委員長：中筋 知美

1. 活動方針及び活動目標

- 1) 入院から地域・在宅へと繋ぐための、病院看護師の役割発揮に関する情報収集・課題発見
- 2) 多職種との協働の推進に関する情報収集・課題発見
- 3) 看護協会事業のトピックスに対するタイムリーな情報収集・課題発見

2. 活動内容

実施項目 【開催場所】	内 容	開催回数	委員
定例委員会 【マルイトOBPビル】	1) ACP の推進に向けての現状と課題 2) タスク・シフト/シェアに伴う課題 3) 日看協委員長会に向けての情報収集（病院看護師の役割発揮について・多様で柔軟な働き方について）	全8回	12名

3. 活動実績

実施項目 【開催場所】	内 容	開催日 等	参加者
合同委員会 (看護師職能Ⅰ・Ⅱ) 【マルイトOBPビル】	・ACP推進に向けて職能Ⅰ・Ⅱそれぞれから見た現状と課題・看護職が働き続けられるための、柔軟な働き方の工夫について ・DX導入病院の事例報告	9月20日 1月17日 全2回	20名 21名
【活動の概要】 1) 入院から地域・在宅へと繋ぐための一つの要因として、ACP推進に向けての病院及び地域での現状について情報収集をした。地域や病院で様々な研修や活動が行われているが、実際に市民にACPがどの程度浸透しているかの評価は難しい。また、ACPノートやリーフレットにおいては、厚労省や大阪府、各市や病院等々なものが活用されている。医師会や消防本部の協力の下、訪問看護師の中ではACP普及を実感しているという意見も多かった。対して、急性期病院では治療が優先となるため、どのタイミングで患者や家族のACPの思いを確認するかが重要ではある。そのためにも、疾病を持つ前から、「どう生きたいか？何を大事に生きてきたか？」を考えることの大切さを伝え、地域から病院、そしてまた地域へその思いを繋いでいくことが、看護職能の役割と考える。 2) 特定行為研修修了看護師によるタスク・シフト/シェアの進捗と課題について意見交換した。また、コメディカル間では、十分な人員確保が困難なため進んでいない現状の報告があった。 3) 看護職の柔軟な働き方の工夫においては、夜勤だけでなく多くの時間シフトを取り入れることで、業務の繁忙となる時間帯に人員を確保する。プラチナナースの活用促進のためにも、業務内容の見直しや、短時間勤務者採用に向けて副業・兼業を認めていくことが必要となる。働き手の減少に向けて、初期投資は高額とはなるが、看護のDX推進も必須である。			

4. 課題・その他

- 1) 看護職による地域・在宅でのACP普及活動の機会を増やす（看護の日・まちの保健室等）
- 2) 看護職の多様な働き方の提案、積極的なナースセンターの登録及び活用促進